

基本計画の策定（植栽計画）

植栽計画については、以下の項目に考慮し検討した。植栽計画に関する平面図について図 6.1 に、植栽対象となる樹種名について表 6.1 に示す。

- ・基本方針で定めた植栽断面図及び樹種リストを基に、海域から陸域への自然な連続性を保つよう配慮し、樹種を配置する。
- ・淡水池周辺は、基本的に植栽を行わず、自然の遷移に任せる。



注：ライン A~B の植栽断面図は、p2 に示す。

図 6.1 植栽計画に関する平面図（案）

表 6.1 検討項目（植栽計画）

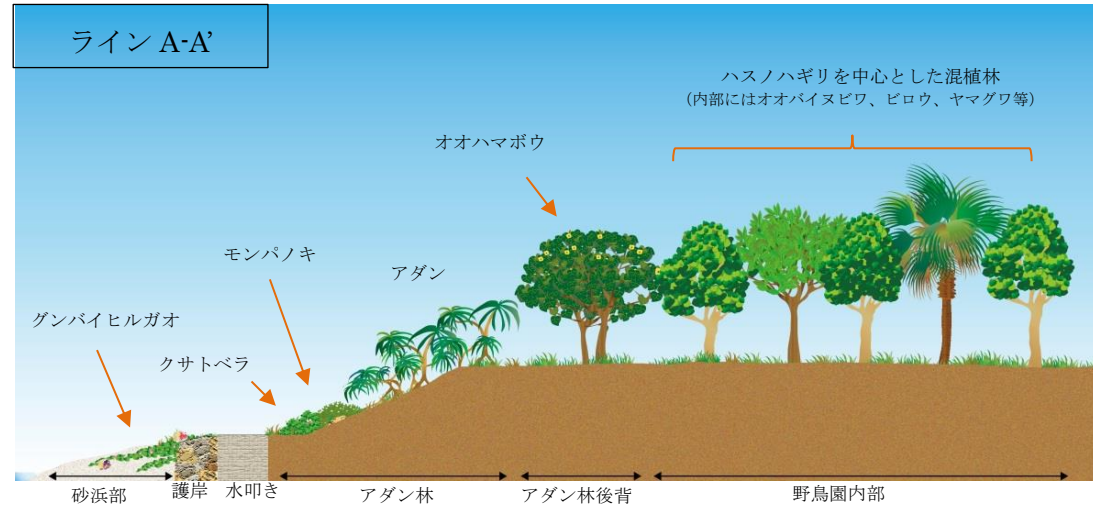
グループ	類別	樹種名
①	砂浜部	グンバイヒルガオ、ハマゴウ、ハマオモト、シマアザミ、ハマアズキ、スナヅル、クロイワザサ、ハマヒルガオ、ツキイゲ
②	アダン林	クサトベラ、モンパノキ、アダン
③	アダン林後背	オオハマボウ
④	野鳥園内部	トベラ、フクマンギ、シマヤマヒハツ、ヤマグワ（シマグワ）、インドシャリンバイ、リュウキュウコクタン、ハスノハギリ、オオバイヌビワ、ビロウ、タブノキ、ヤブニッケイ、アカテツ、ハマヌビワ

注 1：下線は、各類別において主要となる樹種を示す。下線以外の樹種については、状況に応じて植栽する。
 注 2：「砂浜部」に、ハマオモト及びハマヒルガオを追加した（基本方針では未記載）。
 注 3：基本方針では、「アダン林後背」として分類していたトベラ、タブノキ、ヤブニッケイについて、「野鳥園内部」に移動した。
 注 4：基本方針では、「野鳥園端部」・「野鳥園内部」として分類していた樹種について、「野鳥園内部」に統一した。

6.1 植栽にあたっての留意点について

- ・樹木が活着するまでは、防風対策等を行う。
 - ・客土等は、必要に応じて検討する。
 - ・砂浜部から野鳥園内部に向かって植栽し、樹木の高さが自然な連続性を保つよう配慮する。
 - ・砂浜部からアダン林後背（グループ①～③）までは単植し（アダンとオオハマボウは混植も可能）、野鳥園内部（グループ④）は混植することを基本とする。
 - ・砂浜部（グループ①）について、台風等を考慮し、潮位が影響しない高さに植栽する。
 - ・アダン林（グループ②）について、前面をクサトベラ、続いて、モンパノキ、アダンを植栽する。
 - ・野鳥園内部（グループ④）について、ハスノハギリを中心に混植する。
 - ・植栽の密度については、植栽する樹木の種類・大きさ等を考慮し、設計段階で検討する。
 - ・オキナワキョウチクトウについては、利用者の安全に配慮し、植栽することを検討する。
- なお、環境学習センター内で写真パネル等を展示することも検討する。

6.2 植栽の断面図について



グループ	類別	樹種名	植樹帯の幅
①	砂浜部	グンバイヒルガオ、ハマゴウ、ハマオモト、シマアザミ、ハマアズキ、スナヅル、クロイワザサ、ハマヒルガオ、ツキイゲ	最低5～10m程度
②	アダン林	クサトベラ、モンパノキ、アダン	最低10～15m程度
③	アダン林後背	オオハマボウ	最低5～10m程度
④	野鳥園内部	トベラ、フクマンギ、シマヤマヒハツ、ヤマグワ(シマグワ)、インドシャリンバイ、リュウキュウコクタン、ハスノハギリ、オオバイヌビワ、ピロウ、タブノキ、ヤブニッケイ、アカテツ、ハマヌビワ	上記以外の範囲

注1：下線は、各類別において主要となる樹種を示す。下線以外の樹種については、状況に応じて植栽する。
 注2：「砂浜部」に、ハマオモト及びハマヒルガオを追加した（基本方針では未記載）。
 注3：基本方針では、「アダン林後背」として分類していたトベラ、タブノキ、ヤブニッケイについて、「野鳥園内部」に移動した。
 注4：基本方針では、「野鳥園端部」・「野鳥園内部」として分類していた樹種について、「野鳥園内部」に統一した。

図 6.2 ライン A-A' の断面図及び樹種リスト

6.3 淡水池周辺の植栽について

基本的に植栽を行わず、自然の遷移に任せる。風や鳥類によって運ばれた種子により、植生が形成されていくと想定される。

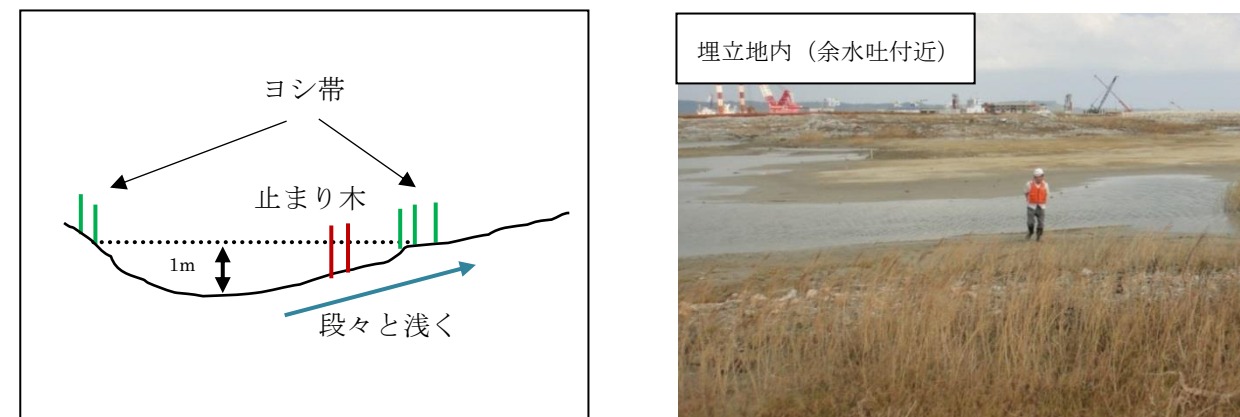
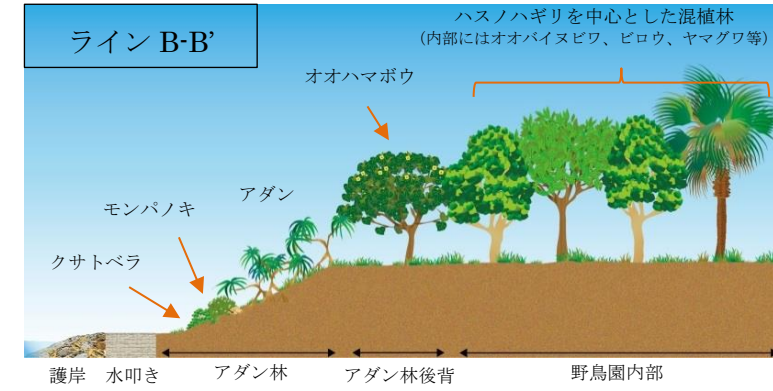


図 6.4 淡水池周辺のイメージ



グループ	類別	樹種名	植樹帯の幅
②	アダン林	クサトベラ、モンパノキ、アダン	最低10～15m程度
③	アダン林後背	オオハマボウ	最低5～10m程度
④	野鳥園内部	トベラ、フクマンギ、シマヤマヒハツ、ヤマグワ(シマグワ)、インドシャリンバイ、リュウキュウコクタン、ハスノハギリ、オオバイヌビワ、ピロウ、タブノキ、ヤブニッケイ、アカテツ、ハマヌビワ	上記以外の範囲

注1：下線は、各類別において主要となる樹種を示す。下線以外の樹種については、状況に応じて植栽する。
 注2：「砂浜部」に、ハマオモト及びハマヒルガオを追加した（基本方針では未記載）。
 注3：基本方針では、「アダン林後背」として分類していたトベラ、タブノキ、ヤブニッケイについて、「野鳥園内部」に移動した。
 注4：基本方針では、「野鳥園端部」・「野鳥園内部」として分類していた樹種について、「野鳥園内部」に統一した。

図 6.3 ライン B-B' の断面図及び樹種リスト